

授業設計に役立つ教材分析の手法

-構造図分析と教室活動分析-



< 2006/4/15 高雄会場、4/16 台北会場 >

独立行政法人 国際交流基金日本語国際センター

柴原智代

Tomoyo_Shibahara@jpf.go.jp

<http://www.asahi-net.or.jp/%7EJT7T-MED/Shibahara/index.htm>

1 イン트로ダクション (5分)

陳敏麗 先生



女性、32歳。

日本の大学を卒業後、台湾に戻って就職した。日本の大学留学中に、副専攻で日本語教育学を受講した。会社を5年勤めた後退職し、高校と大学で日本語を教え始めて、4年経った。趣味は旅行、特技はカラオケ。

【イラスト：<http://www.printout.jp/clipart/index.html>】

ミッション

陳先生は、初級では「大家的日本語(1、2)」(大新書局)を使用し、それ以降は自作教材を作成している。自作作成は作成に追われる一方で、効果があるのか、ないのか不安に感じている。適切な中級教材があれば使ってみてみたいと思っている。

知り合いの日本語教師に聞いてみたところ、その人は「大家的日本語」と継続性がある、という理由で「新日本語中級」(大新書局)を使っていた。陳先生は、「新日本語中級」を分析し、採用できるかどうか検討してみることにした。

2 従来の教材分析の方法 (2分)

「新日本語中級」を詳細に分析してみようと考えた。日本語教育学会編『タスク日本語授法』(1995年)の30ページに下記のような教材分析用紙がのっており、大学で使ったものとほぼ同じなのでこれを使ってみることにした。

教材名	『新日本語中級』
1) 発行年	
2) 対象学習者	
3) 目標	

4) シラバス	
5) 想定時間数	
6) 語数	
7) 漢字数	
8) 各課の構成	
9) 関連教材	
10) 教師用指導書の有無	



しかし、この分析方法では、教材の表面的なことしかわからず、問題点が明らかにならない。そこで、国際交流基金日本語国際センターの日本語教授法シリーズ14巻『教材開発』(島田徳子・柴原智代、ひつじ書房、2007年)を見たら、「問題点が明らかになる教材分析の手法」がのっていたので、それをやってみることにした。

3 構造分析の手法 (80分)

「新日本語の中級」の11課を使って、1課の構造を分析してみましょう。(キット使用)

< 構造分析の手法 > **タスク1**

(1) 1課を構成する要素を抽出する。

(2) 学習目標ごとに構成要素を分類し、教室活動の関係性を考えながら配列し、構造図を作成する。

(3) ガニエの9教授事象(次のページ)を参照しながら、学習目標と教室活動を分析・考察する。

タスク2 (30分)

(2)をやってみて、気がついたことは何ですか。

次のページに「ガニエの9教授事象」があります。1~9事象のうち、『新日本語の中級』に入っていない事象を明らかにしてください。

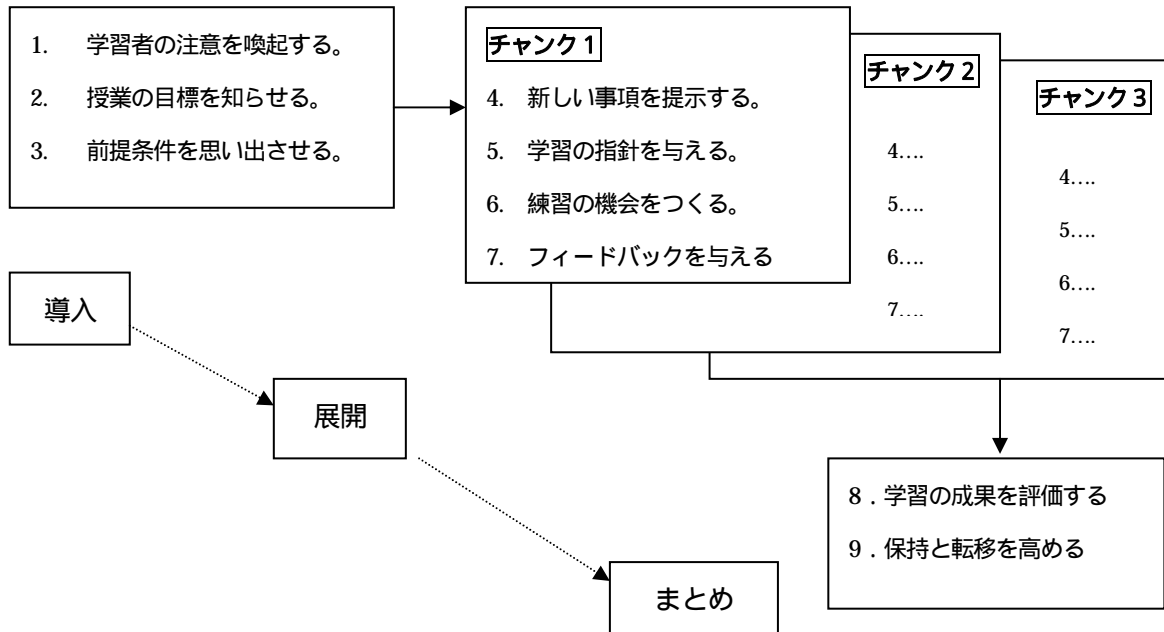


指導方略・学習過程のモデル「ガニエの9教授事象」

指導方略とは、学習目標を達成するために、どのような学習環境を整え、どのような働きかけをするかについての構成要素と手順の計画のことである。教授方略の例として、最も広く知られているものにガニエ(1987)の9教授事象がある。ガニエは、授業や教材を構成する指導過程を「学びを支援するための外側からのはたらきかけ(外的条件)」という視点でとらえ、人間がどのように新しい知識や技能を習得するのかを学習心理学の立場から説明する学習過程を反映した形で、教材を組み立て、説明の方法を工夫し、作業を課していくと、効果のある教材が作れると考える。

鈴木(2002:83)は、授業の構成を考える際によく使われる「導入-展開-まとめ」という枠組みに対応させて、ガニエの9教授事象を教材の構成に利用する方法を提案している。教材の中で、新しい内容を説明し、それについて練習し、確認する(情報提示・学習活動)ためのひとかたまり(単位)をチャンク(chunk)と捉え、教材は導入とまとめと、複数のチャンクによる展開部分で構成されることをわかりやすく説明している。下の図は、ガニエの9教授事象と「導入-展開-まとめ」の関係をまとめたものである。

図1 ガニエの9教授事象



タスク3 (25分)

“Expressions” Unit13 をグループで、やってみてください。

『新日本語の中級』と比べて、気づいたことを話してください。

二種類の構造図を比べて、違いを話し合ってください。



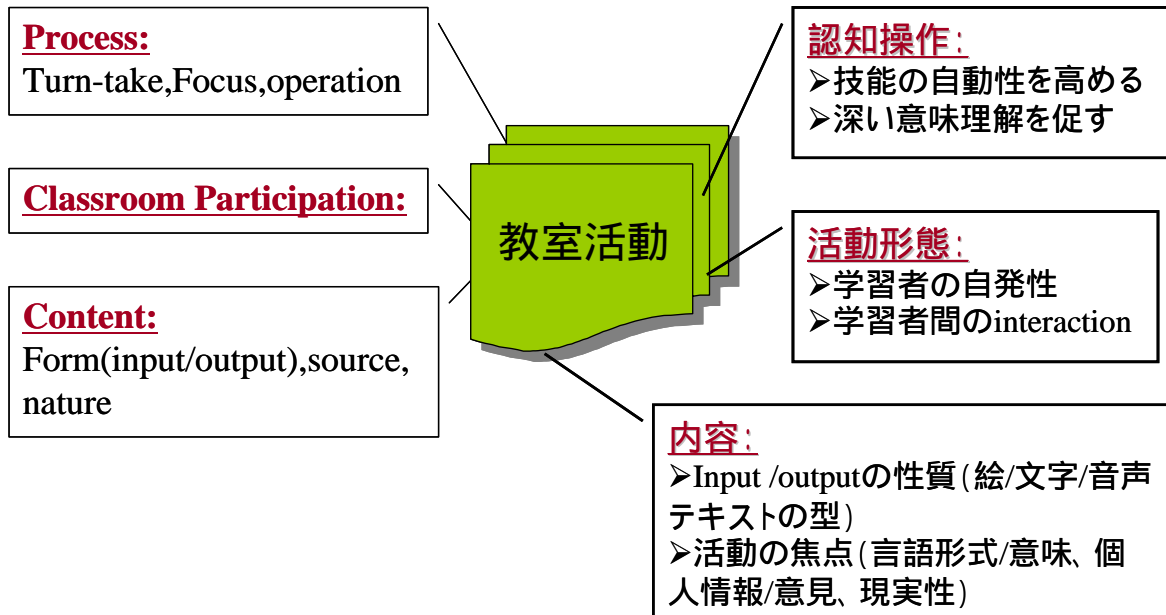
タスク4 (25分)

『新日本語の中級』に入っていない事象については、教師が補助教材を作ったり、授業のやり方を工夫したりして、補う必要があります。グループでアイデアを出して、ふせん紙に書いて、はってください。あとで他のグループと意見交換します。



4 教室活動分析の手法 (45分)

図2 Littlejohn (1998) の教室活動 (task) を分析する観点 (5分)



タスク5 (20分)

次のページの「教室活動分析」の続きをやってみましょう。

教材名:新日本語の中級第11課

			教室活動番号						
(1)Process(過程) 理解を重視しているか			1	2	3	4	5	6	7
技能の自動性を高める	Repeat identically	反復練習(そのままリピートする)							
	Repeat with transformation	活用・変換練習		1					
	Repeat with substitution	代入練習(Cueは与えられる)	1		1				
	Repeat selectively	代入練習(学習者がCueを選ぶ)							
	Repeat with expansion	展開練習			1				
深い意味理解を促す	Analyze (form, meaning)	分析・解読(言語形式、意味)							
	Compare (form, meaning)	比較(言語形式、意味)							
	Hypothesis (form, meaning)	仮説を立てる(言語形式、意味)							
	-1 Apply (form, meaning)	適用(言語形式、意味)							
	-2 Apply (general knowledge)	適用(一般知識)							
実行を引き出す	Select information	情報を選択する							
	Build text	文を作る							
	Negotiate	問題解決							
フィードバックを与える	monitoring	学習者が外国語による自らの産出をチェックする							
(2)活動形態 学習者の自発性 学習者間のInteraction									
(2)-1Learner's Initiative(学習者の自発性)	Initiate	学習者が自発的に考えて答える							
	Respond	学習者が与えられた形式で答える	1	1	1				
	Not required	学習者の発話を要求しない							
(2)-2 Classroom participation(誰と誰がするのかわ)	(C) Learners with whole class simultaneously	クラス全体例 コーラス							
	(T L) Teacher& learner(s), whole class observing	教師と学習者例 ある学習者が答え、ほかの学習者は聞いている。							
	(L C) Learner(s) to the whole class	ある学習者からクラス全体へ(例)スピーチ							
	(L) Learners individually simultaneously	学習者の個人作業							
	(L L) Learners in pairs/groups, simultaneously	学習者同士のペアワークやグループワーク(クラス全体で)							
(3)Content(内容) 談話:discourse 現実性:authenticity									
(3)-1 学習者に提示される情報(インプット)の性質:Input to learners									
Form(形式):談話とは会話なら2回以上のやりとり、文章なら5文以上とする。	Graphic/Code/Number	絵 図形 番号によるか	1	1					
	Words/phrases/sentences:Written	文字による語句、文か	1	1	1				
	Words/phrases/sentences:Oral	音声による語句、文か							
	Extended discourse:Written	文字による談話か							
	Extended discourse:Oral	音声による談話か							
(3)-2 学習者に期待されるアウトプットの性質:Expected Output from learner									
Form(形式):談話の定義は同上	Graphic/Code/Number	絵 図形 番号によるか							
	Words/phrases/sentences:Written	文字による語句、文か							
	Words/phrases/sentences:Oral	音声による語句、文か	1	1	1				
	Extended discourse:Written	文字による談話か							
	Extended discourse:Oral	音声による談話か							
(3)-3 活動の焦点(Focus on)、性質(Nature)、情報源(Source)									
Focus on(焦点)	Language system	言語形式に焦点があたっているか							
	Meaning	意味理解に焦点があたっているか							
	Meaning -System relationship	意味理解と言語形式の関係に焦点があたっているか	1	1	1				
Nature(性質)	Meta Linguistic items	言語項目以外か							
	authentic information	生の情報か(個人情報以外)							
	Personal information/opinion	個人情報/個人の意見が入っているか							
Source(情報源)	Materials	教材から得るか	1	1	1				
	Learner(s)	他の学習者から得るか							

タスク 6 (20 分)

“Expressions” Unit13 をグループでやってみてください。

『新日本語の中級』と“Expressions”の教室活動分析を比べて、違いを話し合ってください。

5 まとめ (15 分)

タスク 7

二つの分析方法によって、『新日本語の中級』の問題点が明らかになりました。陳先生は、『新日本語の中級』を採用すべきでしょうか。

【参考文献】

- (1) アーサー・ヒューズ/静哲人訳(2003)『英語のテストはこう作る』研究社
- (2) 岡崎敏雄(1989)『日本語教育の教材(NAFL選書)』アルク
- (3) ガニエ・ブリックス(1987)『カリキュラムと授業の構成』北大路書房
- (4) 小柳かおる(2004)『日本語教師のための新しい言語習得概論』スリーエーネットワーク
- (5) 島田徳子・柴原智代(2005)「日本語教材作成のための三つの視点 教授設計論の適用、学習過程への注目、教室活動の分析指標」『国際交流基金日本語教育紀要』1号 国際交流基金 53-67
- (6) 島田徳子・柴原智代(2006)「日本語教材作成ハンドブック」(研修用教材)非売品 交流協会に寄贈。
- (7) 菅井英明(2004)「教材の評価とその手法」『日本語教育における評価法に関する基礎的資料整備とその分析』文部省科学研究費補助金研究成果報告書・課題番号13680367 国立国語研究所 120-125
- (8) 鈴木克明(2002)『教材設計マニュアル-独学を支援するために』北大和書房
- (9) 田中望(1988)『日本語教育の方法』大修館書店
- (10) 日本語教育学会編(1995)『タスク日本語教授法』凡人社
- (11) 牧野成一(2001)『ACTFL OPI入門』アルク
- (12) 横山紀子(1999)「インプットの効果を高める教室活動:日本語教育における実践」『国際交流基金日本語国際センター紀要』9号 国際交流基金日本語国際センター 37-53
- (13) Littlejohn(1998) The analysis of language teaching materials: inside the Trojan horse, pp190-216, Material Development in Language Teaching Cambridge Tomlinson(1998)
- (14) Nunan(1989) Designing Tasks for the Communicative classroom Cambridge

教材分析と教材作成の3か条

とりかかる前に現状分析をしっかりと行う。

1. 「教材が問題」だと決め付ける前に、多方面から問題を考えよう。
2. あなたに見える問題が、根本原因とは限らない。
3. あなたに取り組みやすい対応策が、必ずしも成果を生むとは限らない。
4. 対応策は現実性やコスト面を考えよう。「持続性のある活動」が大切。
5. ひとりですることには限りがある。同僚やほかの日本語教育関係者の協力を得られるようにしておこう。

やりっぱなし、作りっぱなしにせずに、評価を行い、改善する。

後世のために、作成過程や評価・改善の結果を文書化し残す。

